

てんとうむし

特集

子どもたちの勤労観・職業観を 育てるために!

～フリーター・ニートを考える～



充実のとき――

目次

- 卷頭言「親は子を、子は親を思いやって」 2ページ
- シリーズ相談指導教室6「銀河」 3ページ
- 特集 子どもたちの勤労観・職業観を育てるために!
～フリーター・ニートを考える～ 4ページ
- 「ほっとひとこま」「読者の声」 8ページ

親は子を 子は親を思いやつて

インフルエンザの広がりは広範囲にわたり、学級閉鎖や学年閉鎖が増え、学校行事やイベントにも影響が出始めています。10月15日には相模原市においてもインフルエンザ注意報が出され、さらに10月19日より新型インフルワクチンの優先接種が始まりました。

「登校してきた子どもたちの健康チェックが朝一番の仕事です」「一割の欠席数で学級閉鎖の対応をとっています」「子どもの発熱で仕事に行けません」「外で遊びたがるので新型インフルワクチンを早く接種させたいです」「妊娠しているので外出は控えるようにしています」など、多くの声が届いています。

これから冬に向けさらに流行のきざしが懸念されます。各自がうがい、手洗い、マスクを心がけると共に、規則正しい生活を送り健康管理に努めることが大切ではないかと思います。

近年、子どもたちを取り巻く環境は変化・多様化し、厳しいものがあります。親は子を、子は親を思いやる気持ちはありますが、親子の絆は時としてくずれることがあります。ちょっとしたすれ違いや反発から会話も少なくなり、次第に溝ができ、向き合うことが難しくなってきます。

そんな時こそ、声かけをしてほしいと思います。「いってらっしゃい」「おかえりなさい」何気ない当たり前の言葉ですが、嬉しいのです。すぐに返事は返ってこないかもしれません、子どもたちの心には届いています。

冬があり夏があり 昼と夜があり
晴れた日と雨の日があって
ひとつの花が咲くように
悲しみも苦しみもあって
私が私になっていく

思わず足を止めポスターを読み返しました。受け取り方はさまざまだと思いますが、短い言葉の中にはたくさんの方の想いがあるのではないかと感じました。

人は人との関わりやコミュニケーション、そしてさまざまな体験を通して基本的生活習慣や規範意識を身につけ、社会性を養っていきます。パソコン、ゲーム、携帯電話などのやりとりからは温もりが感じられません。その時は満たされても、やがて一人になる不安、居場所のない不安、無視される不安などにかられ空しくなります。

そんな時にも、子どもたちは声かけをしてほしい、話を聞いてほしいと思っています。サインを発しています。子どもたちが自立に向かって歩んでいくように時には毅然として、時には叱りながら時には頑張っているねと励ましながら見守って欲しいと思います。

あなたにせがまれて繰り返し読んだ
絵本のあたたかな結末は
いつも私の心を平和にしてくれた
あなたの人生の始まりに
私がしっかりと付き添ったように
私の人生の終わりに少しだけ付き添って欲しい
あなたがうまれてくれたことで私がうけた
多くの喜びと あなたに対する
変わらぬ愛を持って 笑顔で答えたい
「手紙～親愛なる子どもたちへ」の歌詞抜粋ですが、
いつの時代にも支え合い、思いやれる親子であって欲しい、そして命の大切さに気づいて欲しいと思います。
子どもは育てたように育ちます。

「育て」「育つ」欲しいと思います。

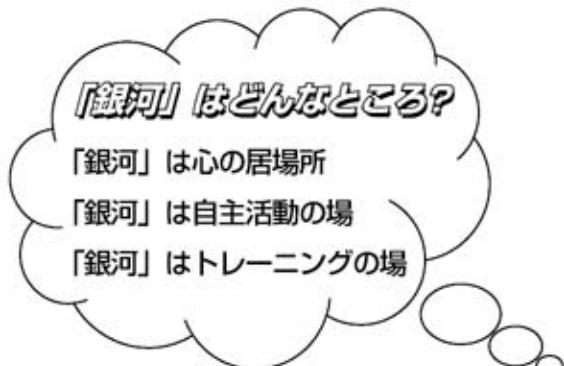
青少年相談員協議会

会長 田所洋子

シリーズ 相談指導教室 6

銀河

(青少年相談センター センター室)



☆個別的な指導と小集団での活動を通して、心のエネルギーを作り、生活リズムの安定と社会性の向上を図ります。



教室内部の様子

〈個別学習〉

各自が自分に必要な学習を自己選択して行います。スタッフが個々の生徒に応じた支援をします。(教科学習を中心に)

〈自由な活動の時間〉

主に生徒同士、あるいは生徒とスタッフの交流を図る時間として活用されます。(ゲーム・パズル・絵描き等)

〈小集団活動〉

決まった曜日にDVD視聴・頭の体操・歌・ストレッチ・読書の時間を設け、継続して取り組んでいます。

銀河の一日

9:30 【開室】

個別学習

◇10:00 〈朝の会〉

11:00 自由な活動の時間

11:45 小集団活動

12:00 昼食・休憩

13:00 午後の活動

14:30 清掃・帰りの会

15:00 【閉室】

*上記は火～金曜日の日課。

月曜日は午前日課です。

〈午後の活動〉

みんなで、いろいろな体験活動を行う時間です。

(出前授業、スポーツ、調理実習、創作活動、PC授業、畠、散策、HR活動など)



調理実習の様子



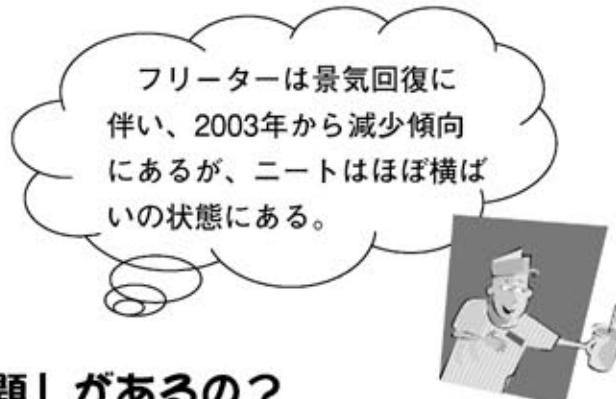
理科の授業風景

子どもたちの勤労観・職業観を育てるために! ～フリーター・ニートを考える～

「どのくらい」いるの？

厚生労働省は、労働白書の中で、「フリーター（※1）」と「ニート（※2）」の数について、次のように示しています。

年	フリーター数	ニート数
1987	79万人	資料なし
1997	151万人	42万人
2003	217万人	64万人
2008	170万人	64万人



「どんな問題」があるの？

<本人にとっての問題>

- (1) 若年期は、企業に属して仕事をしながら学んでいく重要な時期であるにも関わらず、そういった機会が得られない。
- (2) 正社員と比較して生涯賃金や年金の受領額について格差が広がる。「フリーターの三無し（※3）」とも言われている。

<社会にとっての問題>

- (1) 今後の日本経済を担う若者の職業能力が高まらないため、生産性が低下して経済成長の制約になる恐れがある。

	フリーター	正社員
平均収入	106万円	387万円
生涯賃金	5,200万円	2億1,500万円
年金受領額	66,000円(月)	146,000円(月)

- (2) フリーターやニートは経済基盤が脆弱であることから、未婚化、晩婚化、少子化を深刻化させる。

「どうして」なってしまうの？

<社会状況の視点から>

バブル期以降の経済停滞により若者が働く場を確保することが難しくなってきており、学校卒業後、正社員の職を得られず、フリーターやニートになってしまふと言われている。



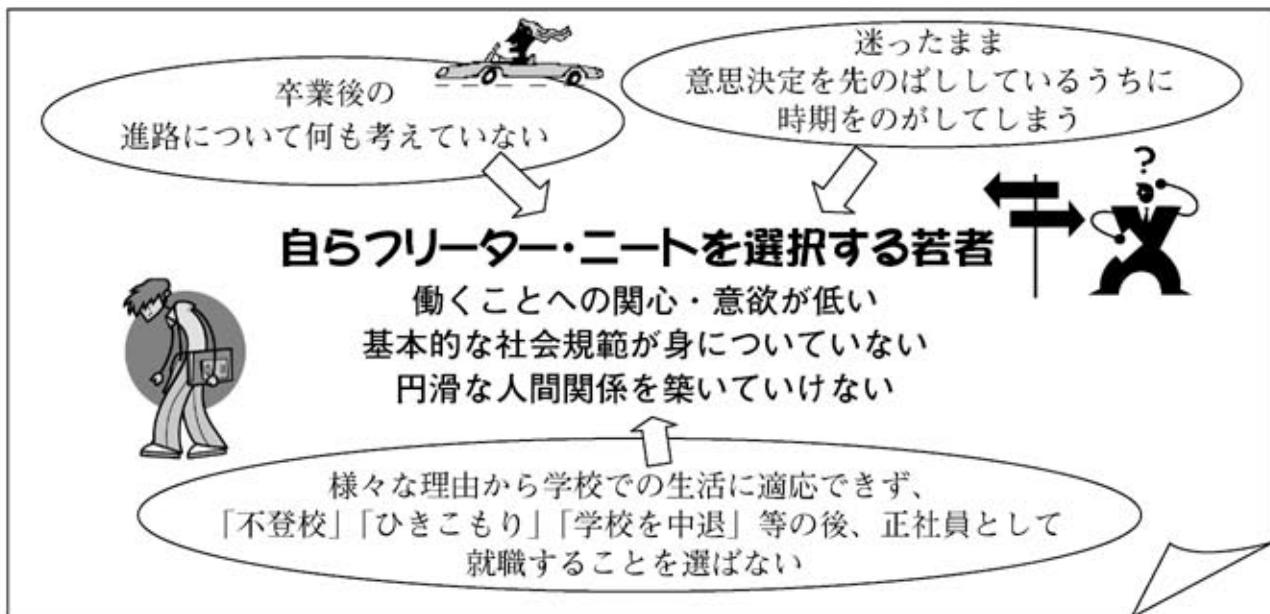
<若者自身の視点から>

社会状況とは別に、若者がフリーターやニートを自ら選択してしまうという問題もある。

※1=15~34歳の若者で、現在、就業中の場合、勤め先での呼称がアルバイトかパートの者。ただし、男子の場合就業継続年数5年未満で、女子については未婚の者。もしくは、現在無業者の場合、家事も仕事も通学もしておらず、アルバイトかパートの仕事を希望する者。

※2=NEET (Not in Education, Employment or Trainingの略) 学びもしなければ、就職もせず、職業訓練を受けない若者。

※3=無研修・無昇進・無保険。



文部科学省

「キャリア教育の推進」

子どもたちが「生きる力」を身に付け、明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組む姿勢、激しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力やしっかりとした勤労観(※4)・職業観(※5)を身に付け、それが直面するであろう様々な課題に柔軟に、かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようとする。

子どもたちに身に付けさせたい4つの力**人間関係形成能力**

他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションをはかり、協力・共同してものごとに取り組む。

情報活用能力

学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して自己の進路や生き方の選択に生かす。

将来設計能力

夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実をふまえながら、前向きに自己の将来を決定する。

**意思決定能力**

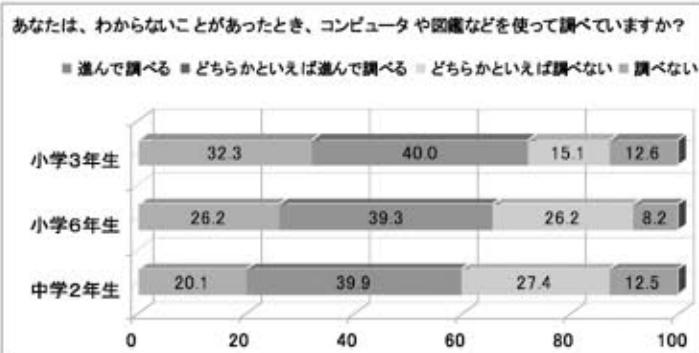
自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。

※4 = 身の周りの職業の社会的な意義や社会の一員としての役割についての見方や考え方。

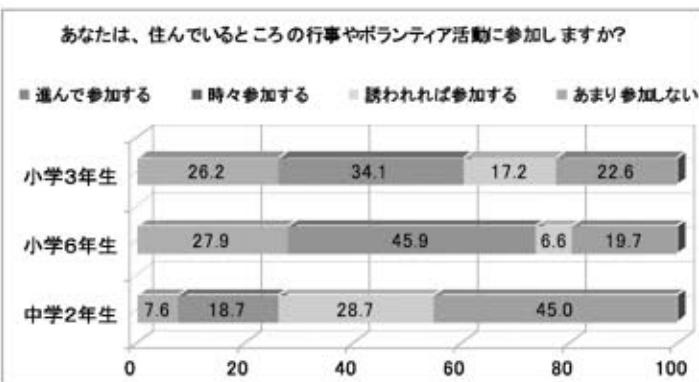
※5 = 個人が働くことなどどのように向き合って生きていくかや働くことそのものに対する見方や考え方。

「相模原の子どもたち」の様子は?

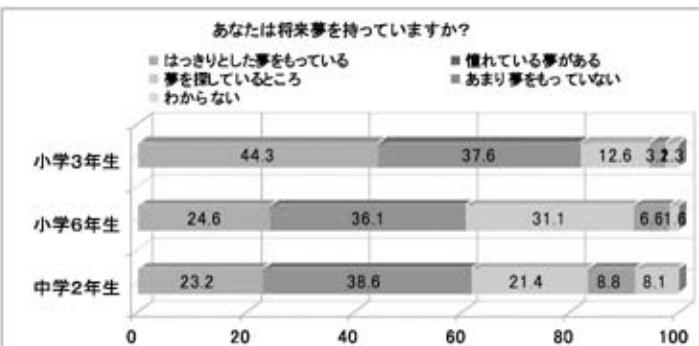
これらは、子どもたちに身に付けさせたい4つの力がどうの
かを調べるために行ったアンケート(※6)の一部です。



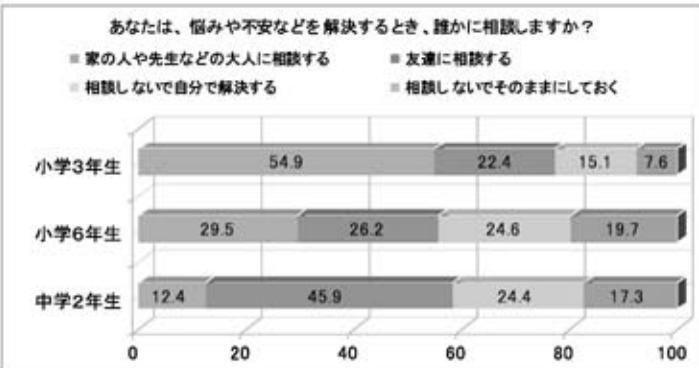
学年が上がるにし
たがってわからな
いことを色々な方
法で調べなくなる?



住んでいるところ
の行事やボランティ
ア活動にあまり参
加しない中学生?



学年が上がるにし
たがってはっきり
した夢を持ってい
ない子どもが増え
ている?



悩みや不安をなかなか
相談できない思春期の
子どもたち。

みなさんは、「相模原の子どもたち」をどうとらえますか?

それぞれが様々な取り組みを！

学校では

キャリア教育の視点から育てたい児童・生徒像を明確にし、特別活動の学級活動・ホームルーム活動、学校行事だけでなく、各教科や道徳、総合的な学習の時間においても授業実践を始めています。中学校の「職業体験」は、よく知られているところです。



家庭では

お子さんと一緒に将来について語り合い、子どもたちの夢を育むことを意識することが大切です。夢の実現に向かって頑張ったことは、子どもたちの貴重な財産になります。



地域では

ある港町での例です。その町では、多くの大人が漁業に従事しています。その町で生活する子どもたちは、当然のように朝起きると漁の準備をする親の姿を見、学校の行き帰りは漁協で働く姿や、網の手入れをする姿を見て育ちます。つまり日常の風景に働く大人の姿がたくさんあるのです。この町には、フリーター・ニートの若者はいないそうです。毎日生活する中で、自然に望ましい「職業観」「勤労観」が育まれていたのかもしれません。「働く大人の背中」を子どもたちに見せましょう。



今、中学校は、子どもたちが「職業体験」をする仕事場所を求めています。子どもたちが豊かな職業体験をするために、より多くの業種、より多くの場所が必要なのは言うまでもありません。ぜひ、地域の子どもたちを受け入れ、よりよい体験をさせて欲しいと思います。

行政では

さがみはら若者サポートステーション（厚生労働省委託事業・相模原市協働事業）

ニートやひきこもり状態にある若者の職業的自立に向けた支援をするため、総合相談や就労支援プログラムを作成し、他の若者支援機関と連携しながら継続的支援を実施しています。（<http://www.parasute.jp/>）



相模原市就職支援センター（相模原市委託事業）

就職や転職したいがどうしてよいかわからない、自分に合っている仕事がわからない、面接練習をしたいなど求職中の若者を支援しています。

（<http://www.sagamihara-city.jp/shushoku/>）



「ほっとひとこま」

～小学校や中学校の相談室より～

学校の相談室には、こんなほっとする時間が流れています
相談員さんがそっと教えてくれました

その48



小学校の相談室で、「相談したいことがある」と言って毎週、予約をして来室する子がいます。でも、実はお話は3分ほどあとは全部遊び。遊びも、最初のころは自分が勝ちたいあまり、少しでも自分がリードされるとズルをしたり、ルールを都合のいいように変えてしまったりします。それが、数ヶ月後、同じ遊びをしても、一度もズルをすることなく、最後まで勝負を楽しむことができるようになりました。そのころ、教室での様子も、少しずつですが友達と上手に遊べるようになってきているようでした。

この子にとっては、もちろん話したいこともあったのでしょうか、まずは人と1対1でじっくりと関わりを持ちたかったのかなと思いました。子どもたちは、ことばのやりとりだけでなく、いろんな表現によって元気になったり、成長したりするのだと日々、子どもたちに教えてもらっています。

(F相談員)

小学校で授業を見学に行くと必ず子どもたちが気配を感じ、後ろを振り返ります。(なるべく目立たないようにしているのですが)ニコニコ笑顔をくれる子ども、「誰この人?」という顔をする子ども、いろんな表情があります。その中でも気になる子どもには目を合わせ、軽くうなずくようにしています。そうすると大体の子どもはちゃんと前を向き直します。相談室にも休み時間はたくさんの子どもたちがやってきます。一人ひとりに声をかける時間がないときでも、必ず一度は子どもと笑顔で目を合わせるようにしています。「また来てくれたね」「勉強がんばって」目を合わせたときに心の中でつぶやきます。すると子どももまた同じように目や表情で心のつぶやきを返してくれます。その言葉のないやりとりで子どもたちに一瞬の「ほっ」をプレゼントできたらと思っています。

(M相談員)

放課後、生徒全員が下校し、やっと静かになった職員室で1年〇組の担任に話しかけられる。「先生!〇組、どう思います?」

「みんな、元気ですね」「もう、元気すぎて、昨日なんかは…」と会話が続く。確かに元気なクラス。まだ小学生気分の抜けきれていない生徒もいる。気になる生徒、特別な配慮の必要な生徒もいる。でも全員が生き生きと学校生活を送っている。2学期になって運動会、文化祭と一つひとつの行事をこなしていくうちに少しずつだが確実に成長してきている。

今、中学1年生のこの時期、集団の楽しさ、仲間と関わることの心地よさを充分に体験できていれば、2年、3年と学年があがるに従って大きなハードルを目の前にもしても、不適応、不登校にまでは至らないのでは…と話しているうちに、すでに外は真っ暗。「また来週」と笑顔に送られ校舎を後にする。

(Y相談員)

昼休み終了のチャイムが聞こえると、相談室へ遊びに来ていた子の多くは「いそがなきゃ」と次の行動へ移っていきます。遊んだものをそのままにして一日散に行ってしまう子、「ありがとうございました」と挨拶する子、皆から「うるさい!」と怒られていたのに誰よりもきちんと片づける子と退室のしかたも様々です。波が引くように子ども達が去ってもふり返ると、相談室内には何人かの子が残っています。マイペースで切り替えの苦手なAさんは「次はなんだっけ?」と促し、相談員と1対1で話したかったBさんから最近の様子を聞いて「来週ね」と手を振り、「行きたくねえ」と椅子に沈み込んでしまったCさんは片づけをしながらしばらくして「いってらっしゃい」と送り出します。

相談とはまた違ったほんの一瞬、一回限りの言葉かけにあれでよかったかななどと頭を悩ませながらも、このわずかなふれあいの時間を私自身はとても貴重に感じています。

(S相談員)

読者の声

学校にいた時、毎日登校してきて、校庭やビオトープのところで遊んで帰るという子がいた。お母さんと一緒に行動できず、母子分離ができていなかったのだ。その時、相談センターの相談員が母子分離の指導にあたってください

り、母親が離れても少しの時間は授業に参加できるようになり、その後その子は支援級へとつながっていった。今、色々な問題を抱えた子どもたちが多い。「不登校」ではなくても、支援を必要としている子どもたちが多い。早期の発見と対処により、その子に応じた支援があれば救われる子がどれほど多いことかと感じる。193号の相談活動の多さからもこのことは窺える。相談センターと学校現場が互いに専門性を生かして、連携し合うことはこれまで出来なかった指導を生み出すにつながる。学校と相談員や相談指導教室との普段からの緊密な連携、問題の共有化の必要性が求められていると言える。

(相模原市教育委員会嘱託職員 長谷川 兑)

ヤングテレホン相談



一人で悩まず まず相談!

小・中・高校生や青少年の抱える悩み、心配事などを本人や保護者から直接電話でお受けし、専門の相談員が一緒に考えます。(匿名での相談もお受けします。)

専用電話 042-755-2552 Eメール相談(24h受付) yantele@city.sagamihara.kanagawa.jp

受付時間 月曜日~金曜日 午前8:30~午後9:00(土・日・祝日は留守番電話)